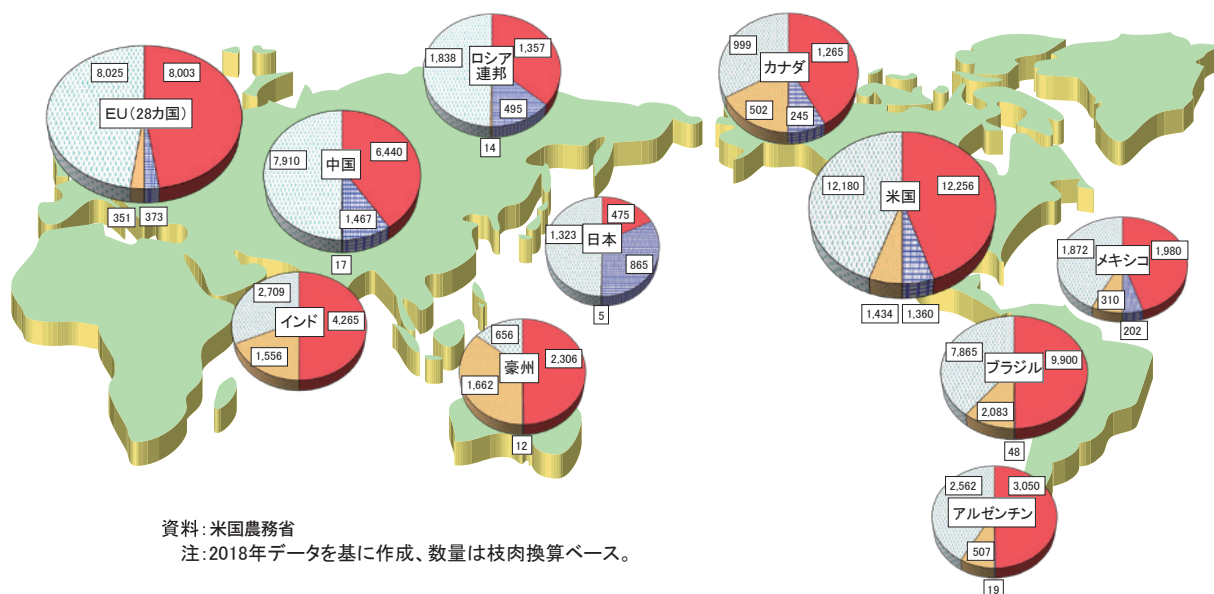


絵で見る世界の畜産物需給

牛 肉



消費量(千トン) 生産量(千トン)
輸出量(千トン) 輸入量(千トン)



資料: 米国農務省

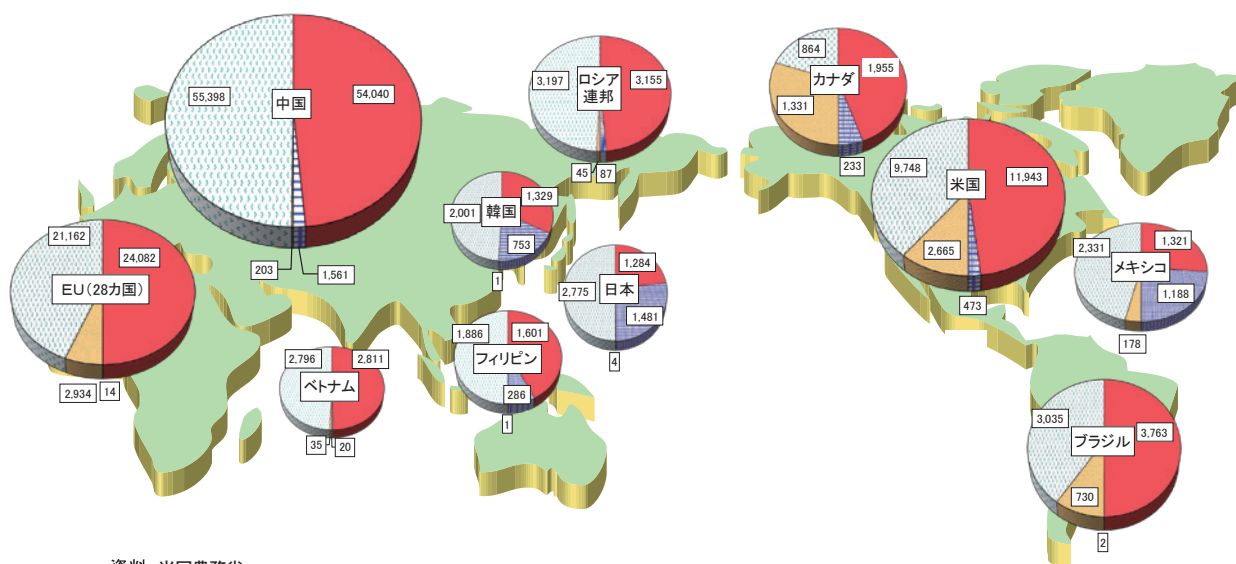
注: 2018年データを基に作成、数量は枝肉換算ベース。

2018年の世界の牛肉生産量は、7127万トン（枝肉換算ベース、FAO Food Outlook、2019年11月）と見込まれる。主要生産国（国別データは米国農務省）は、米国（1226万トン）、EU28カ国（800万トン）などの先進国のほかに、ブラジル（990万トン）、中国（644万トン）、インド（427万トン、水牛肉を含む）、アルゼンチン（305万トン）といった新興国である。牛肉消費量は、米国が世界最大の消費国であるが、EU、アルゼンチン、インドなどの国々も生産とともに消費が増加している。牛肉輸出量は、ブラジル（208万トン）、豪州（166万トン）、インド（156万トン）の順に多い。また、日本への輸出割合が高い米国や豪州、ニュージーランド（63万トン）の3カ国で全輸出量の約3割を占める。

豚 肉



消費量(千トン) 生産量(千トン)
輸出量(千トン) 輸入量(千トン)



資料: 米国農務省

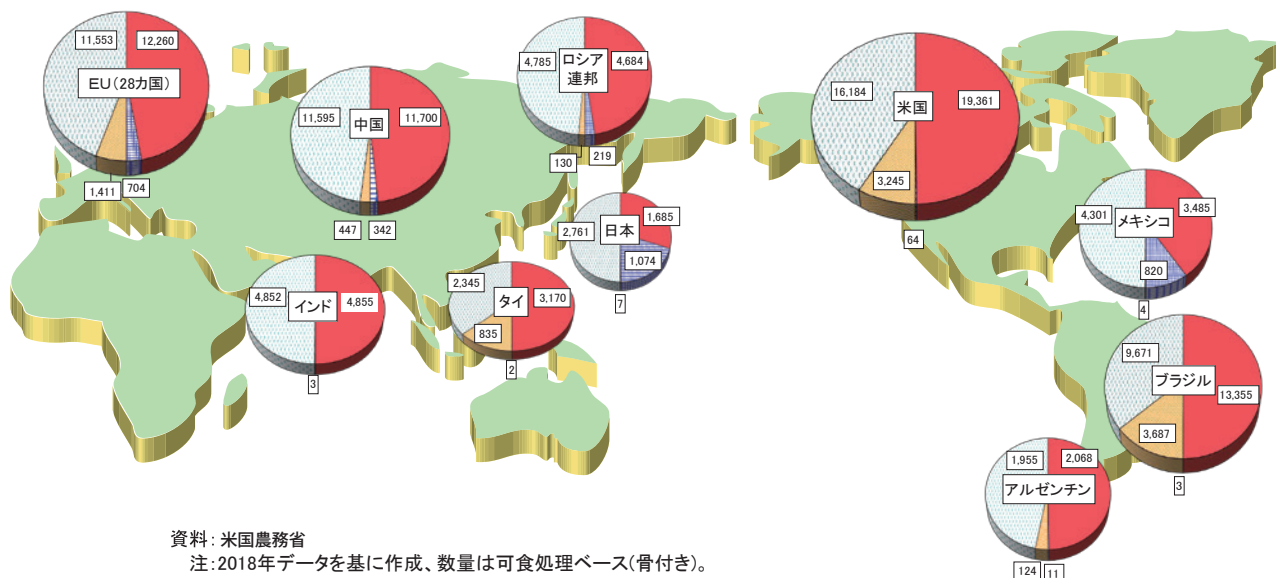
注: 2018年データを基に作成、数量は枝肉換算ベース。

2018年の世界の豚肉生産量は、1億2073万トン（枝肉換算ベース、FAO Food Outlook、2019年11月）と見込まれる。主要生産国（国別データは米国農務省）は、中国（5404万トン）であり、これにEU28カ国（2408万トン）や米国（1194万トン）などが続く。EUや米国は生産量に占める輸出量の割合が高く、東アジアを中心に輸出量を増加させている。新興国では、経済成長に伴いブラジル（376万トン）、ロシア（316万トン）、ベトナム（281万トン）の生産量が増加している。中国以外のアジア地域では、フィリピンや韓国などの生産量や消費量が多い。日本は生産量が128万トンであるが、消費量のおよそ半分の148万トンを入力しており、世界全体の輸入量の約2割を占めている。

鶏 肉



消費量(千トン) 生産量(千トン)
輸出量(千トン) 輸入量(千トン)



資料: 米国農務省

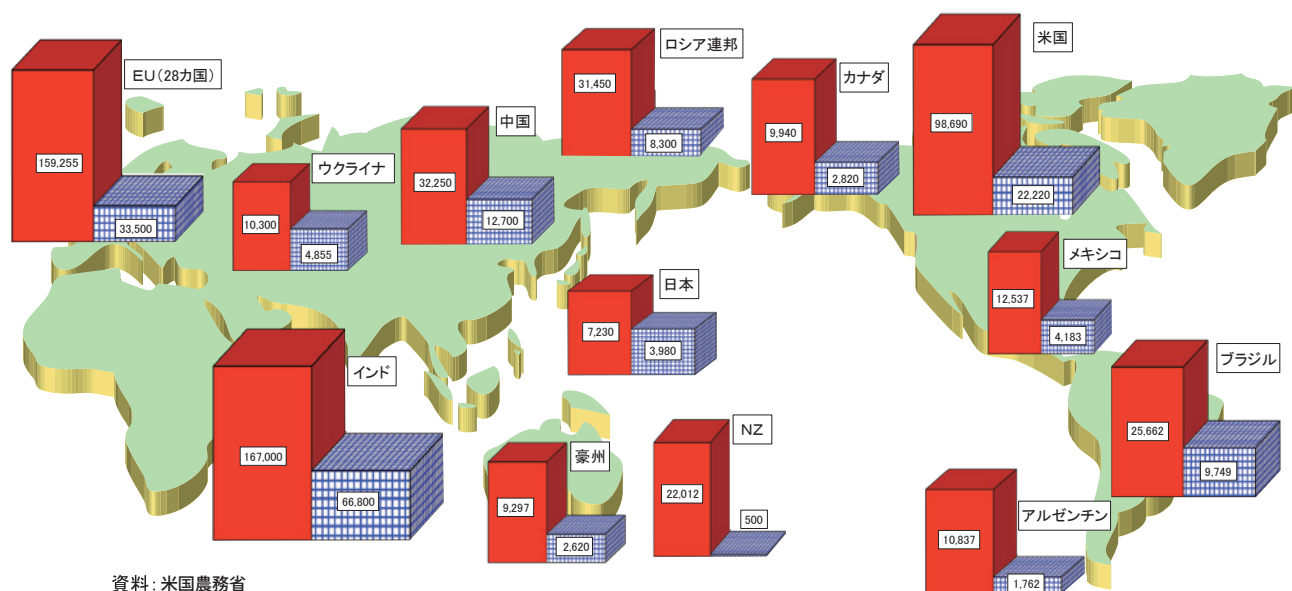
注: 2018年データを基に作成、数量は可食処理ベース(骨付き)。

2018年の世界の鶏肉生産量は、1億2462万トン（骨付き換算ベース、FAO Food Outlook、2019年11月）と見込まれる。主要生産国（国別データは米国農務省）は、米国（1936万トン）であり、これにブラジル（1336万トン）、中国（1170万トン）と続く。このほか、最近ではインド（486万トン）やロシア（468万トン）、アルゼンチン（207万トン）などで著しく増加している。鶏肉消費量は、米国が最大であり、人口増加に伴いインド（485万トン）なども増加している。鶏肉輸出量は、ブラジル（369万トン）、米国（325万トン）、EU28カ国（141万トン）、タイ（84万トン）の順に多く、ブラジルと米国で世界の輸出量の約6割を占める。

生 乳



生乳生産量(千トン) 飲用乳消費量(千トン)



資料: 米国農務省

注: 2018年データを基に作成、数量には水牛乳を含む。

2018年の世界の生乳生産量（水牛乳含む）は、8億4053万トン（FAO Food Outlook、2019年11月）と見込まれる。主要生産国（国別データは米国農務省）は、インド（1億6700万トン）、EU28カ国（1億5926万トン）、米国（9869万トン）などであるが、インドは水牛乳が生乳生産量の約5割を占める。地域別にみると、最近では、アジアや南米の生乳生産量の増加が著しい。2018年の貿易量（輸出量・生乳換算）は7564万トンと見込まれ、その貿易率は9.0%と穀物や砂糖、牛肉、家きん肉などと比べて低い。主要輸出国（地域）は、ニュージーランド、EU28カ国、米国、豪州などである。